内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2003年4月）

◎4月の事務総局長の主な動向

4月1～2日　ウクライナ訪問（キエフ、ウクライナ）

“情報社会－21世紀の開発戦略”をテーマにした国際会議が、ウクライナ通信情報委員会およびロシア通信情報省の主催で開催され招待されました。ウクライナ政府は、この会議において、WSISに対する東欧諸国の見解を取りまとめ、WSISの準備プロセスに入力していくことを考えています。同会議では、ロシアのレイマン通信大臣をはじめ、東欧諸国の旧知の通信大臣等が出席していて、彼らと意見交換ができる良い機会となりました。

また、ウクライナ政府外務長官らと会見し、国内の約2万3,000の学校をネットワークで結ぶ取り組みなどの説明を受け、また、ウクライナのクシュマ大統領が12月のWSISに出席する予定であることも伺い、ウクライナ政府のICTにかける意気込みを感じることができました。

4月8日、15日　WSIS政府間ビューロー会合（ジュネーブ）

第2回WSIS準備会合（2月）でまとめられた出力文書について、各国政府および関係者からのさらなる追加コメントを受けてドラフティングをする会合が、7月15日から18日にかけてパリで開催されます。今回のビューロー会合では、7月のパリ会合までに追加コメントをどのようにして出力文書に反映させるのかといったWSIS事務局の作業方法、パリ会合でのオブザーバーの取り扱い等について議論が夜遅くまで続きました。過去のサミットと同様に、サミットが近づくにつれ各国政府代表部の関心が高まり、議長職などの役割の配分、各国のプレゼンスのバランス、民間セクターや市民団体と政府との関係などに、いくつもの政府および外交団が敏感になってきます。

4月9～11日　ITUマネジメント見直し専門家会合（ジュネーブ）

マラケシュ全権決議7に基づいて設置されたITUの財政管理および運営の効率化について検討する5人の専門家会合が開催され、5月の理事会への報告書が議論されました。

ITU内での予算作成過程および財務管理の透明化の観点から、事務局の活動をチェックする少人数の理事国によるグループを設けることや、ITU活動の効率化の観点から、ITU活動についてプライオリティーをつけることや文書の印刷・配布、通訳、翻訳の作業の改善などが理事会に提案されることとなります。

短期間の活動でまとめられた専門家の報告ですので、実際の事務局の活動を誤解して提言されている部分もありますが、基本的には歓迎できる提案が含まれています。特に予算や運営に関する提案については、理事会での承認が必要となりますので、理事会での議論を期待しています。

4月10日　ITUテレコムアジア2004開催地選定

2004年のITUテレコムアジア開催地として7つの国が立候補していましたが、最終的にプサン（韓国）を選定しました。ITUテレコムの開催地は、ITU事務総局長の諮問機関的役割のITUテレコムボードという委員会の意見を受けて決定しています。しかし今回は、プサン（韓国）とバンコク（タイ）から同程度の好条件が示されていたためにボードでも決定することができませんでした。両国ともに、ITUテレコムアジアのために展示場スペースを無償で提供し、特別の交通手段も提供するとの破格の好条件でした。

最終的には、マラケシュ全権委員会議で採択された決議（ITUテレコムの開催地選定においてはローテーションに配慮すること）の精神を尊重して、過去においてITUテレコムアジアが開催されていないアジアの北部にある韓国を選定することとしました。

4月14日、15日　アナンUN事務総長との会談、UNICTTFビューロー会合（ニューヨーク）

WSISの開催が12月に迫り、国連本部やUNDPなどのニューヨークにある国際機関とアナン事務総長が各国元首に発送する公式招待状の内容を調整してきましたが、その最終局面となり、私からアナン事務総長にWSIS準備の状況を説明するとともに公式招待状の発送を依頼しました。イラク戦争で難しいタイミングですが、アナン事務総長は公式招待状を出すことを承認されました。

この公式招待状が発送されることで、各国元首の出席に関する具体的な作業が始まるものと期待しています。

また、この時期に、開催されていたUNICTタスクフォースのビューロー会合に出席して、WSISで採択される宣言および行動計画をより実効的なものにするための貢献などを要請しました。

4月23日　ITUテレコムサープラス委員会（ジュネーブ）

世界レベルおよび地域レベルを問わずITUテレコムの開催によって生じた剰余金の一部は、電気通信の開発プロジェクトに充てられていて、当委員会では、この資金を使用する具体的なプロジェクトを審査しています。今回は、アフリカ諸国が推進している“アフリカの開発のためのパートナーシップ（NEPAD）”に関連したプロジェクト、日本政府の協力でITUが進めていたルーラル通信開発のプロジェクトや遠隔地医療システムプロジェクトに資金を配分しました。

4月24日　ハイレベルサミット組織委員会（HLSOC）（パリ）

HLSOCは、WSIS準備を進めるために各国連機関で構成されている組織です。WSISが近づいてきたこともあり、各機関の関心も盛り上がってきて、UNESCO、ILO、FAOなどが、WSIS期間中に独自のサイドイベントを開催する予定で、また、UPU（万国郵便連合）はWSISのための記念切手発行を各国に呼び掛けることを検討しています。

また、今後の情報社会に対する国連国際機関としての意見も、政府、民間セクターや市民団体とは別に、WSISに入力することに決まりました。

4月25～26日　国連機関幹部会議（UNCEB、パリ）

UNCEBは、アナン国連事務総長などの国連幹部と国連専門機関の長で構成された会議で、国連の主要課題について情報交換や議論を行っています。その時々の話題を議題にしますので、WHOからはSARSへの対策状況について説明があり、ITUからは、先のHLSOC会合の結果など、WSIS準備状況の情報を提供しました。